

平成 28 年 2 月 22 日

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

鹿児島大学学術情報部
西菌 由依

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、日本資料専門家欧州協会（European Association of Japanese Resource Specialists. 以下「EAJRS」）の第 26 回年次大会に参加し、発表を行った。以下のとおり概要を報告する。

1. 派遣期間

平成 27 年 9 月 14 日（月）～ 平成 27 年 9 月 21 日（月）

2. 訪問先

オランダ・ライデン大学ほか

3. 目的

欧州における日本資料の専門家（図書館員や研究者等）をメンバーとして、日本の資料や情報を普及促進させるための活動を行っている「EAJRS」では、内外の情報共有や連携推進のために毎年年次大会を開催している。第 26 回年次大会は、テーマを「**Breaking Barriers - Unlocking Japanese Resources to the World**」とし、従来あまり知られてこなかった一次資料を普及させるための取り組みに特に焦点があてられた。鹿児島大学で所蔵する特色あるコレクションについて、その共有に係る取り組みを紹介する発表を行うこと、あわせて日本資料の共有等に関する国内外の動向や事例について情報収集と意見交換を行うことを目的に、本大会へ参加した。

4. 内容

大会は、平成 27 年 9 月 16 日～19 日の 4 日間、オランダのライデンにて開催され、ヨーロッパや日本を始めとする 16 か国から 125 名が参加した。11 のセッション（シングルセッション）に、計 35 本の発表、ライデン大学図書館等の貴重資料見学が生まれ、あわせてベンダーワークショップ等も開催された。資料の紹介や、電子化・データベースに関する発表が多く行われたが、取り扱う主題や時代、アプローチも多様であり、ディスカバリー・サービス等のような昨今の学術情報流通における動向とその対応に関しても言及があった。

鹿児島大学からは、「**Japanese modernization and the perspective of Satsuma Domain: efforts for sharing its cultural heritage**（日本近代化における薩摩藩の視座とその文化遺産

の共有に向けた取り組み)」と題し、開催地に関わりの深い洋学資料の日本における受容という観点から本学所蔵の玉里文庫資料を紹介するとともに、貴重書公開事業やデジタルアーカイブを通じた持続的な資料共有の取り組みについての事例報告を行った。これらの取り組みは、複数のアプローチを取りながら様々なレベルで資料公開を進めていくことで、地域や社会全体で資料やその価値についての意識を共有し、地域全体の文化資源としてその持続的な保存と活用に繋がる枠組みの構築を期待するものである。発表資料は EAJRS の Web サイト¹で公開されている。

5. 成果および所感

自機関の資料や本学の事業を海外に向けて発信することができたとともに、発表内容に対し会場から寄せられた関心を受けて、本学が国内外に向けて情報発信や資料公開を進めていくことの必要性と重要性を再認識することができた。

あわせて、大会における各発表や議論をとおして、海外における日本資料へのニーズは高いにもかかわらず、資料やその情報へのアクセスおよび活用には大小様々な障壁があり、研究やライブラリアンらによる研究・学習支援に支障を来していることや、日本研究者人口の減少を加速させていることを肌身で感じた。この障壁の要因やレベルは様々だが、日本資料のユーザや利用環境について、日本側の認識と理解を深めることや、日本資料を視えにくい孤立したものにせずメタデータや電子化した資料をどのように整備し広く流通させていくべきかについて、各機関が問題意識や経験を共有しながら改善への努力を積み重ねていくことが必要だと考える。

¹ <http://ejrs.net/>